

上北の 農林水産業

「選ばれる青森」
への挑戦



令和4年6月 青森県上北地域県民局地域農林水産部

目次

I 地域農林水産部の組織図・分掌事務	1
II 上北地域の概要	
1 地勢	3
2 気候	3
3 人口	3
4 地域経済	4
5 農林水産業	
（1）耕地面積	4
（2）主要作物の作付面積	5
（3）農業産出額	5
（4）農家数	6
（5）主要家畜の飼養頭数	7
（6）森林の状況	7
（7）水田の整備状況	7
（8）水産業の状況	8
（9）産地直売施設の状況	8
III 上北地域の「攻めの農林水産業」重点推進方針	9
1 労働力不足の克服と安全・安心・高品質な農産物の生産	10
2 地域の活力向上に向けた基盤づくり	11
3 連携・協働・交流による活力ある農山漁村づくり	13
4 農林水産業の成長と共生社会を支える人財育成	14
5 野菜産地の生産・販売力の更なる強化	15
6 グローバル化の進展に対応した畜産経営の確立	16

I 地域農林水産部の組織図・分享事務

■内訳

■農 林：59人

(部長・農林次長を含む)

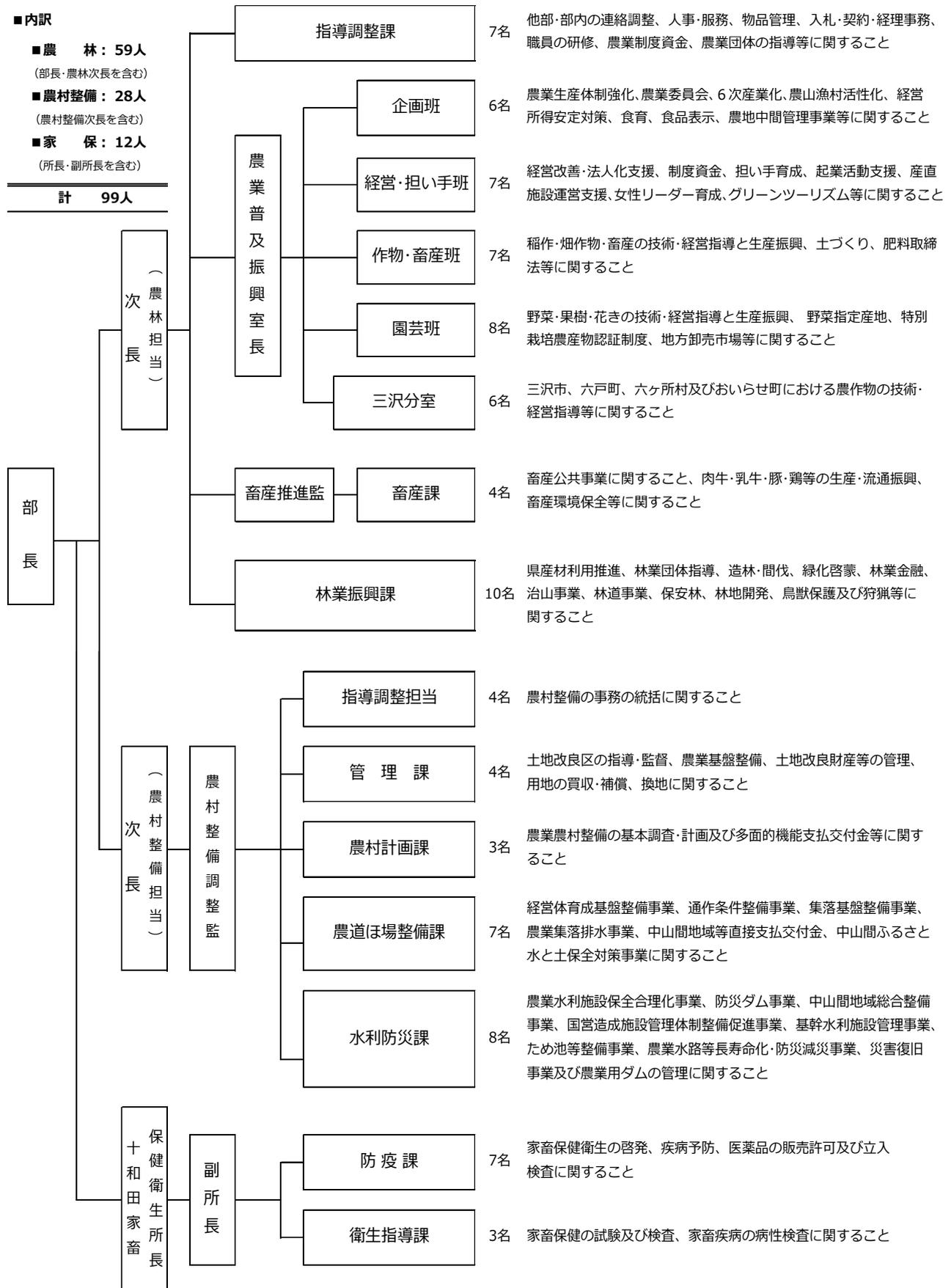
■農村整備：28人

(農村整備次長を含む)

■家 保：12人

(所長・副所長を含む)

計 99人



「青森県上北地域県民局地域農林水産部」の所在地・連絡先

■ 指導調整課、農業普及振興室、畜産課、林業振興課

〒034-0093 青森県十和田市西十二番町20-12（青森県十和田合同庁舎2階）

TEL 代表:0176-22-8111

直通:指導調整課 0176-23-5388

農業普及振興室 0176-23-4281

林業振興課 0176-24-3379

FAX 指導調整課、畜産課、林業振興課

>> 0176-22-9161

農業普及振興室

>> 0176-25-7242

注 部長、次長（農林担当）へ御連絡の際は、指導調整課までお願いします。

■ 農業普及振興室三沢分室

〒033-0024 青森県三沢市東岡三沢1-1-7

TEL 0176-53-2498

FAX 0176-53-8539

■ 指導調整担当、管理課、農村計画課、農道ほ場整備課、水利防災課

〒034-0082 十和田市西二番町10-21

TEL 指導調整担当 0176-23-5245

管理課 0176-23-5246

農村計画課 0176-23-5317

農道ほ場整備課 0176-23-5318

水利防災課 0176-23-5250

FAX 指導調整担当

>> 0176-22-3929

管理課、農村計画課、農道ほ場

整備課、水利防災課

>> 0176-23-5247

注 次長（農村整備担当）へ御連絡の際は、指導調整担当までお願いします。

■ 十和田家畜保健衛生所

〒034-0093 青森県十和田市西十二番町19-23

TEL 0176-23-6235

FAX 0176-23-3044

Ⅱ 上北地域の概要

※表の数値は、四捨五入などにより計が一致しないことがあります。

1 地 勢

上北地域は、東西に約 52km、南北に約 81km、総面積が約 2,125k m²で、県全体（9,645k m²）の 22%を占めています。

十和田湖、小川原湖という2つの大きな湖が南部と東部に位置し、西部は八甲田連峰から八幡岳・野辺地烏帽子岳へ連なる山岳地帯、東部は火山灰土で覆われた三本木原・三沢・六ヶ所の3つの台地で形成されています。



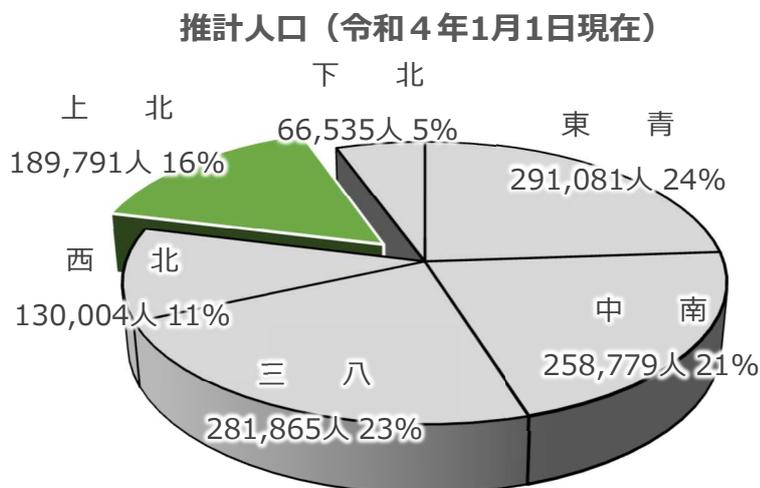
2 気 候

上北地域は広大であるため、市町村により気候は異なります。

しかし、太平洋側に位置するため、夏はヤマセ（偏東風）により低温が続くことがあり、冬は一部地域を除き降雪量が少ない特徴があります。

3 人 口

上北地域の人口は約 191 千人で、県人口（1,228 千人）の約 16%を占めており、地域別では第 4 位となっています。



推計人口（令和4年1月1日現在）

市町村	推計人口(人)
十和田市	59,559
三沢市	38,624
野辺地町	12,099
七戸町	14,269
六戸町	10,409
横浜町	4,151
東北町	16,147
おいらせ町	24,314
六ヶ所村	10,219
計	189,791

[青森県の推計人口令和4年1月1日現在]

4 地域経済

上北地域の総生産額は約 8,600 億円で、県全体の 18.5%です。

農業の総生産額は 600 億円で、県全体（1,544 億円）の 38.9%を占めています。

[平成 30 年度市町村民経済計算]

市町村内総生産

(単位:百万円・%)

区分	上北	県	上北/県
農業	60,045 (7.0)	154,464 (3.3)	38.9
林業	832 (0.1)	2,049 (0.0)	40.6
水産業	2,798 (0.3)	28,440 (0.6)	9.8
鉱業	464 (0.1)	13,983 (0.3)	3.3
製造業	270,078 (31.5)	775,582 (16.7)	34.8
建設業	60,898 (7.1)	313,202 (6.8)	19.4
卸売・小売業	56,783 (6.6)	552,278 (11.9)	10.3
運輸・郵便業	26,996 (3.1)	246,175 (5.3)	11.0
宿泊・飲食業	14,018 (1.6)	120,350 (2.6)	11.6
不動産業	75,290 (8.8)	508,695 (11.0)	14.8
その他	289,915 (33.8)	1,918,674 (41.4)	15.1
計	858,117 (100.0)	4,633,892 (100.0)	18.5

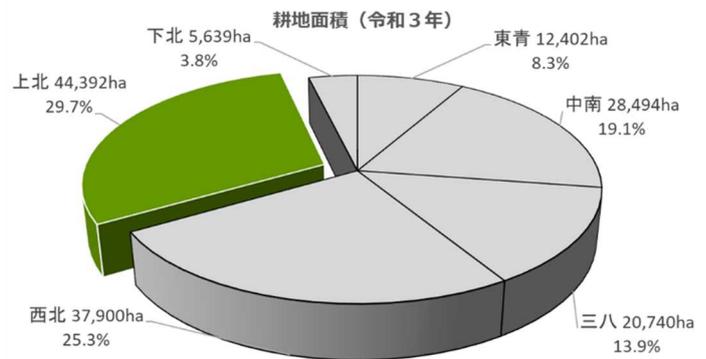
5 農林水産業

上北地域は水稲・野菜・畜産を中心とした農業が営まれ、森林面積も総土地面積の約半分を占め林産資源も豊富です。

また、水産業は沿海でのホタテ養殖や小川原湖などでの内水面漁業等を中心に行われています。

(1) 耕地面積

上北地域の耕地面積は 44,392ha と、県全体(149,600ha)の約 3 割を占め、県内で最も多い地域です。その内訳は、水田 22,260ha、畑 22,109ha となっています。



[令和 3 年作物統計]

[令和 4 年度青森県森林資源統計書]

耕地面積 (令和3年)

(単位:ha)

市町村	総土地面積	耕地面積		森林面積		その他面積	
		田	畑	田	畑	田	畑
十和田市	72,565 (100.0%)	12,300 (17.0%)	8,460	3,830	47,702 (65.7%)	12,563 (17.3%)	
三沢市	11,987 (100.0%)	3,780 (31.5%)	1,880	1,900	2,035 (17.0%)	6,172 (51.5%)	
野辺地町	8,168 (100.0%)	652 (8.0%)	213	439	5,282 (64.7%)	2,234 (27.4%)	
七戸町	33,723 (100.0%)	6,950 (20.6%)	3,870	3,080	22,585 (67.0%)	4,188 (12.4%)	
六戸町	8,389 (100.0%)	3,460 (41.2%)	1,970	1,490	2,506 (29.9%)	2,423 (28.9%)	
横浜町	12,638 (100.0%)	2,180 (17.2%)	384	1,790	8,191 (64.8%)	2,267 (17.9%)	
東北町	32,650 (100.0%)	8,110 (24.8%)	3,210	4,890	13,824 (42.3%)	10,716 (32.8%)	
おいらせ町	7,196 (100.0%)	3,230 (44.9%)	1,680	1,550	1,273 (17.7%)	2,693 (37.4%)	
六ヶ所村	25,269 (100.0%)	3,730 (14.8%)	593	3,140	12,980 (51.4%)	8,559 (33.9%)	
上北計	212,585 (100.0%)	44,392 (20.9%)	22,260	22,109	116,378 (54.7%)	51,815 (24.4%)	
県計	964,566 (100.0%)	149,600 (15.5%)	79,200	70,400	634,387 (65.8%)	180,579 (18.7%)	

(2) 主要作物の作付面積

令和3年は、水稲 7,471ha、大豆 674ha が作付され、水稲は県全体の約 17%、大豆は約 13%を占めています。

野菜は、上北地域全体では、ごぼう、ながいも、にんにく、だいこん等の露地野菜が多く作付けされています。にんじん（三沢市、おいらせ町）、キャベツ（おいらせ町）、ねぎ（十和田市）、トマト（七戸町）、ばれいしょ（横浜町）、こかぶ（野辺地町、東北町）などは、それぞれの市町村で重点的に作付されています。

管内の主要作物作付面積

(単位:ha)

市町村	水稲	大豆	ながいも	にんにく	ごぼう	だいこん	にんじん	キャベツ	ねぎ	トマト	ばれいしょ	こかぶ
十和田市	3,270	321	230	394	306	63		1	107	1		
三沢市	190	-	218	173	452	140	200	21	1		67	
野辺地町	29	-	23	2							2	36
七戸町	1,520	263	88	283	31	0	2	5	5	13		2
六戸町	724	64	123	128	243	56	94				2	
横浜町	145	-	34	5	20		1				117	
東北町	1,100	26	385	152	212	124	38	25	4	2	73	38
おいらせ町	442	x	67	18	167	313	208	101	2		4	
六ヶ所村	51	x	206	7	81	95	32	12			11	
上北計	7,471	674	1,374	1,162	1,513	790	573	165	118	17	277	75

[水稲・大豆：農林水産関係市町村別統計（令和3年産）。表中の「-」は事実不詳又は調査を欠くもの、
「X」は個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため統計数値を公表しないもの]

[野菜：上北地域県民局調べ（令和3年産）]

(3) 農業産出額

令和2年の上北地域の農業産出額は 1,061 億円で県全体の 32.6%を占め、地域別では県内 1 位となっています。

特に、野菜は県全体の 56.1%、畜産も県全体の 53.4%と 5 割以上を占めています。

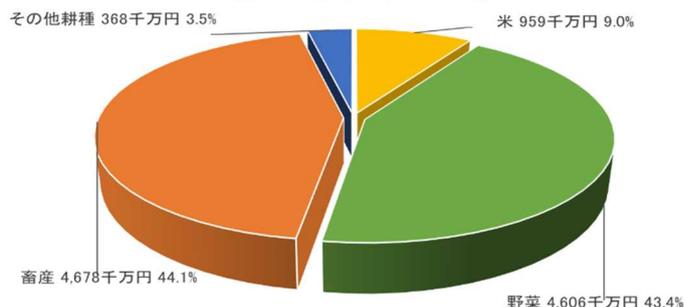
農業産出額（令和2年）

(単位:千万円)

市町村	合計	耕種計						畜産計	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	その他
		米	野菜	果実	花き	その他							
十和田市	2,672	1,327	413	873	7	x	34	1,345	349	27	920	48	1
三沢市	1,593	847	26	770	0	2	49	746	29	26	378	263	50
野辺地町	224	36	4	28	0	x	4	188	-	188	-	-	0
七戸町	1,069	499	197	270	7	9	16	570	525	12	28	-	5
六戸町	754	734	94	622	0	0	18	20	4	5	x	0	11
横浜町	1,222	175	17	34	0	0	124	1,047	33	41	x	958	15
東北町	1,560	1,191	141	984	0	x	66	369	62	192	25	90	0
おいらせ町	685	357	5	345	0	x	7	328	88	239	x	0	1
六ヶ所村	832	767	62	680	12	10	3	65	10	13	42	-	0
上北計	10,611	5,933	959	4,606	26	21	321	4,678	1,100	743	1,393	1,359	83
県計	32,537	23,781	5,483	8,209	9,059	115	915	8,758	1,436	926	1,884	4,032	480
上北/県	32.6%	24.9%	17.5%	56.1%	0.3%	18.3%	35.1%	53.4%	76.6%	80.2%	73.9%	33.7%	17.3%

[令和2年市町村別農業産出額]

農業産出額（令和2年：上北地域）



「0」：単位に満たないもの

(例：0.4 千万円→0 千万円)

「-」：事実不詳又は調査を欠くもの

「X」：個人又は法人その他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの

(4) 農家数

上北地域の総農家数は、令和2年には6,630戸で県全体の18.2%を占めています。このうち販売農家は5,177戸で、平成27年対比77.2%と減少しています。

農業就業人口は、65歳以上の割合が49.1%と高齢化が進んでいます。

専兼業別農家数

(単位:戸・%)

地域	年次	総農家数	販売農家		専業		兼業		自給的農家
							第1種	第2種	
上北	平12	13,166	11,912 (100.0)	1,923 (16.1)	9,989 (83.9)	2,791	7,198	4,616	
	17	11,666	10,083 (100.0)	2,103 (20.9)	7,980 (79.1)	2,397	5,583	1,583	
	22	10,419	8,719 (100.0)	2,403 (27.6)	6,316 (72.4)	1,763	4,553	1,700	
上北	27	8,394	6,704 (100.0)	2,267 (33.8)	4,437 (66.2)	1,405	3,032	1,690	
十和田市		2,729	2,243 (100.0)	719 (32.1)	1,524 (67.9)	457	1,067	486	
三沢市		615	548 (100.0)	205 (37.4)	343 (62.6)	143	200	67	
野辺地町		159	73 (100.0)	31 (42.5)	42 (57.5)	12	30	86	
七戸町		1,241	959 (100.0)	299 (31.2)	660 (68.8)	189	471	282	
六戸町		908	743 (100.0)	236 (31.8)	507 (68.2)	172	335	165	
横浜町		307	179 (100.0)	59 (33.0)	120 (67.0)	31	89	128	
東北町		1,384	1,168 (100.0)	412 (35.3)	756 (64.7)	258	498	216	
おいらせ町		737	557 (100.0)	200 (35.9)	357 (64.1)	93	264	180	
六ヶ所村		314	234 (100.0)	106 (45.3)	128 (54.7)	50	78	80	
県	27	44,781	34,866 (100.0)	13,309 (38.2)	21,557 (61.8)	7,341	14,216	9,915	
上北/県	27	18.7%	19.2%	17.0%	20.6%	19.1%	21.3%	17.0%	
上北	令2	6,630	5,177	農業センサス2020調査から 専兼別統計は廃止				1,453	
十和田市		2,307	1,865					442	
三沢市		436	374					62	
野辺地町		120	51					69	
七戸町		1,008	769					239	
六戸町		746	598					148	
横浜町		228	119					109	
東北町		1,021	857					164	
おいらせ町		547	383					164	
六ヶ所村		217	161					56	
県	令2	36,465	28,062	8,403					
上北/県	令2	18.2%	18.4%	17.3%					

農業就業人口

(単位:人・%)

地域	年次	計		15~29歳		30~59歳		60歳以上	
								うち65歳以上	
上北	令2	13,670 (100.0)	758 (5.5)	4,606 (33.7)	8,306 (60.8)	6,706 (49.1)			
十和田市		4,928 (100.0)	268 (5.4)	1,608 (32.6)	3,052 (61.9)	2,521 (51.2)			
三沢市		936 (100.0)	49 (5.2)	332 (35.5)	555 (59.3)	443 (47.3)			
野辺地町		129 (100.0)	4 (3.1)	40 (31.0)	85 (65.9)	67 (51.9)			
七戸町		2,124 (100.0)	137 (6.5)	718 (33.8)	1,269 (59.7)	1,056 (49.7)			
六戸町		1,541 (100.0)	69 (4.5)	504 (32.7)	968 (62.8)	767 (49.8)			
横浜町		285 (100.0)	11 (3.9)	101 (35.4)	173 (60.7)	142 (49.8)			
東北町		2,345 (100.0)	142 (6.1)	826 (35.2)	1,377 (58.7)	1,066 (45.5)			
おいらせ町		980 (100.0)	62 (6.3)	325 (33.2)	593 (60.5)	474 (48.4)			
六ヶ所村		402 (100.0)	16 (4.0)	152 (37.8)	234 (58.2)	170 (42.3)			
県	令2	72,618 (100.0)	3,648 (5.0)	24,852 (34.2)	44,118 (60.8)	35,216 (48.5)			
上北/県	令2	18.8%	20.8%	18.5%	18.8%	19.0%			

[2005~2020 農林業センサス]

(5) 主要家畜の飼養頭数

上北地域は畜産が盛んで、家畜の飼養頭数の県全体に占める割合は、乳用牛が82.9%、肉用牛が67.4%、豚が67.1%、採卵鶏が34.2%、ブロイラーは58.3%となっています。

主要家畜の飼養頭数(令和3年2月1日現在)

(単位:頭、千羽)

市町村	乳用牛(雌)		肉用牛		豚	採卵鶏	ブロイラー
	2歳以上		繁殖雌				
上北計	9,950	6,860	36,000	8,250	236,500	2,648	4,131
県計	12,000	9,300	53,400	13,200	352,700	7,734	7,087
上北/県	82.9%	73.8%	67.4%	62.5%	67.1%	34.2%	58.3%

[上北計:県畜産課調べ、県計:農林水産統計年報]

(6) 森林の状況

ア 上北地域の総面積の54.7%(116,378ha)が森林で、その43.7%が民有林であり、県全体の民有林の割合(37.6%)より高くなっています。

イ 所有規模が零細な所有者[※]が多く、造林や森林整備、伐採等の作業は森林組合や林業事業体に依頼しています。

※保有山林面積が1ha以下の世帯

管内の森林現況(令和3年)

(単位:ha・戸)

市町村	総土地面積 A	総森林 (森林率)						林家数と保有山林面積			
		B	B/A	C	C/B	D	D/B	E	E/F	G	G/H
十和田市	72,565	47,702	(65.7%)	19,472	(40.8%)	28,230	(59.2%)	1,101	(35.9%)	4,645	(38.0%)
三沢市	11,987	2,035	(17.0%)	1,769	(86.9%)	266	(13.1%)	142	(4.6%)	414	(3.4%)
野辺地町	8,168	5,282	(64.7%)	3,287	(62.2%)	1,995	(37.8%)	115	(3.8%)	371	(3.0%)
七戸町	33,723	22,585	(67.0%)	7,601	(33.7%)	14,984	(66.3%)	487	(15.9%)	2,668	(21.8%)
六戸町	8,389	2,506	(29.9%)	2,506	(100.0%)	0	-	264	(8.6%)	922	(7.5%)
横浜町	12,638	8,191	(64.8%)	3,031	(37.0%)	5,160	(63.0%)	82	(2.7%)	164	(1.3%)
東北町	32,650	13,824	(42.3%)	7,693	(55.7%)	6,131	(44.3%)	632	(20.6%)	2,243	(18.3%)
おいらせ町	7,196	1,273	(17.7%)	1,273	(100.0%)	0	-	132	(4.3%)	458	(3.7%)
六ヶ所村	25,268	12,980	(51.4%)	4,230	(32.6%)	8,750	(67.4%)	108	(3.5%)	352	(2.9%)
上北計	212,584	116,378	(54.7%)	50,862	(43.7%)	65,516	(56.3%)	F 3,063	(100.0%)	H 12,236	(100.0%)
県	964,564	634,387	(65.8%)	238,337	(37.6%)	394,785	(62.2%)	13,801		70,728	
上北/県	22.0%	18.3%		21.3%		16.6%		25.4%		19.9%	

[令和4年度青森県森林資源統計、林家数と保有山林面積のみ 2020 農林業センサス]

(7) 水田の整備状況

上北地域の令和3年度までの水田の整備率は、84.7%となっています。

水田の整備状況

(単位:ha)

地域	水田面積 A	整備済							未整備			
		面積 B	標準区画30a程度以上 整備済					20a未満 C	面積 D=B+C	割合 D/A	面積 E=A-D	割合 E/A
			1ha以上	1ha未満 50a以上	50a未満 30a以上	30a未満 20a以上	整備率 B/A					
東青	8,364	5,827	207	677	4,020	923	69.7%	940	6,766	80.9%	1,598	19.1%
中南	11,680	8,600	238	444	6,823	1,095	73.6%	2,817	11,417	97.7%	263	2.2%
三八	7,379	2,590	111	167	1,399	913	35.1%	3,384	5,974	81.0%	1,405	19.0%
西北	27,918	23,446	1,329	696	18,748	2,672	84.0%	894	24,341	87.2%	3,577	12.8%
上北	22,260	12,571	318	702	8,727	2,824	56.5%	6,288	18,858	84.7%	3,402	15.3%
下北	1,594	594	108	64	74	349	37.3%	180	774	48.6%	820	51.4%
県	79,200	53,627	2,311	2,750	39,791	8,776	67.7%	14,504	68,131	86.0%	11,069	14.0%
上北/県	28.1%	23.4%	13.7%	25.5%	21.9%	32.2%	-	43.4%	27.7%	-	30.7%	-

[県農村整備課調べ]

(8) 水産業の状況

ア 上北地域では、陸奥湾及び太平洋海域で海面漁業が、小川原湖、十和田湖、奥入瀬川、高瀬川などで内水面漁業が営まれています。

令和3年度における上北地域の海面漁業は、漁獲数量が 10,073t（県全体の 7.0%）、漁獲金額が 2,813 百万円（同 8.6%）となっています。

漁獲数量が多いのは、陸奥湾ではホタテガイ、カレイ、ナマコなどで、太平洋海域ではスルメイカ、サバ、サケ、ウバガイ（ホッキガイ）などです。

海面漁獲数量・金額（令和3年）

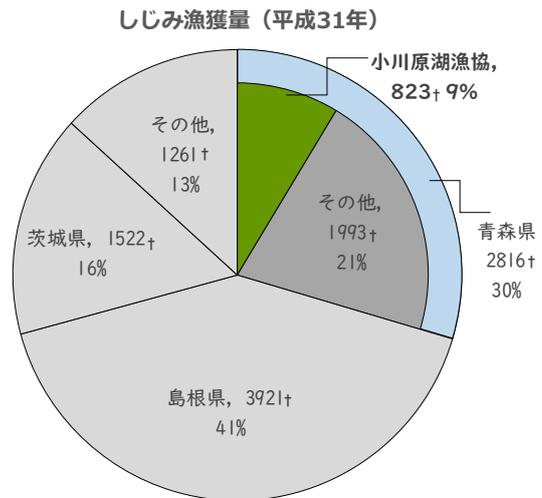
地域	漁獲数量（属地、単位:t）					漁獲金額（属地、単位:百万円）				
	計	魚類	貝類	その他水産動物	海藻類	計	魚類	貝類	その他水産動物	海藻類
上北	10,073	2,633	6,541	789	111	2,813	593	1,409	780	32
三沢市	1,452	774	285	393	0	534	177	78	279	0
野辺地町	2,372	50	2,218	104	0	648	21	459	168	0
横浜町	3,943	101	3,777	65	0	1,009	60	799	150	0
おいらせ町	552	275	260	17	0	202	123	73	6	0
六ヶ所村	1,753	1,433	0	209	111	420	212	0	177	32
県	144,610	51,768	78,503	12,740	1,599	32,751	8,992	13,897	9,440	422
上北/県	7.0%	5.1%	8.3%	6.2%	6.9%	8.6%	6.6%	10.1%	8.3%	7.5%

[令和3年度青森県海面漁業に関する調査結果書]

イ 上北地域の内水面漁業については、全国でも有数の漁獲数量・金額を誇る小川原湖があり、主力のシジミは平成31年(令和元年)の漁獲数量が約 823t で、全国の約 9% を占めています。

また、ワカサギ、シラウオの産地としても有名です。

[小川原湖漁協、内水面漁業生産統計]



(9) 産地直売施設の状況

上北地域には、産地直売施設が 36 か所あります（うち、道の駅が 7 か所）。

令和2年度の年間販売額は約 27 億 2 千万円、1 施設当たりの平均販売額は約 7.6 千万円となっています。

[県総合販売戦略課調べ]

産直施設の販売額（令和2年度）

地域	施設数 A	販売額（万円）	
		全施設 総額 B	1施設当たり 平均額 B/A
東青	17	123,762	7,280
中南	34	278,944	8,204
三八	33	223,595	6,776
西北	30	232,060	7,735
上北	36	271,875	7,552
下北	15	36,500	2,433
県	165	1,166,736	7,631
上北/県	21.8%	23.3%	99.0%

Ⅲ 上北地域の「攻めの農林水産業」重点推進方針

- 「攻めの農林水産業」とは、生産から流通・販売までを結び付け、収益性のアップを図ることを基本に、消費者起点に立った安全・安心で優れた県産農林水産物やその加工品を生産し、売り込んでいくという**販売を重視する本県の振興策**です。

農林水産業を取り巻く厳しい環境や新たな課題に対応するため、**上北地域の特徴を活かした次の6つの重点推進方針**に基づき、「攻めの農林水産業」を推進しています。

重点推進方針

1 労働力不足の克服と安全・安心・高品質な農産物の生産

2 地域の活力向上に向けた基盤づくり

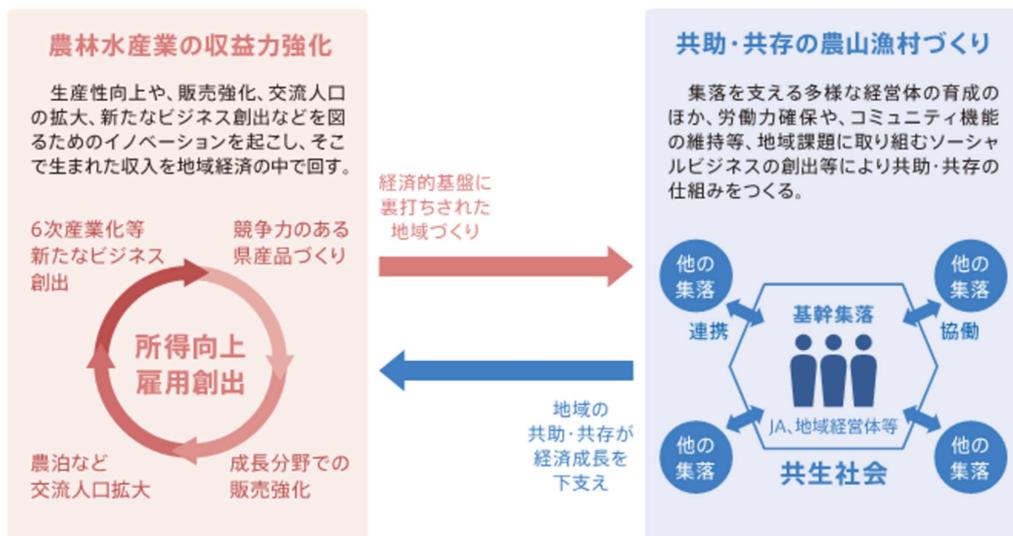
3 連携・協働・交流による活力ある農山漁村づくり

4 農林水産業の成長と共生社会を支える人財育成

5 野菜産地の生産・販売力の更なる強化

6 グローバル化の進展に対応した畜産経営の確立

- 特に、第4期「攻めの農林水産業」（平成31年度～令和5年度）では、産業政策としては「**農林水産業の収益力強化**」を図る施策を、地域政策としては「**共助・共存の農山漁村づくり**」につながる施策を好循環させながら展開しています。



1 労働力不足の克服と安全・安心・高品質な農産物の生産

(1) スマート農機普及による野菜産地体制の強化

上北地域は県内有数の露地野菜産地ですが、農業就業人口の減少による労働力不足が問題になっています。このため、県では省力化が期待できる自動操舵トラクタを中心としたスマート農機の普及を進めています。

経営者だけでなく女性や若手農業者も対象とした自動操舵トラクタの活用研修会の開催のほか、活用方法を分かりやすく伝えるためのビデオマニュアルの作成等に取り組んでいます。



自動操舵トラクタによるながいも収穫作業

(2) 新たな米政策に対応した水田農業の確立

需要に応じた主食用米の生産が求められており、水田収益力強化ビジョンに即した振興作物の普及・拡大を進める必要があります。

主食用の「まっしぐら」は、更なる低コスト生産を追求しながら食味の向上を図り、良食味の新品種「はれわたり」は、地域適応性を検討して品種特性や栽培方法を生産者に周知していきます。また、転作作物は土づくりや排水対策、病害虫防除などの基本技術の徹底により高品質安定生産を目指しています。



転作大豆の土づくり実証試験

(3) 健康な土づくりを基本とした安全・安心な農産物の生産

高収益作物の連作や過剰施肥等により農作物の収量や品質が低下している事例が見受けられ、さらに肥料価格が上昇していることから、堆肥等の地域資源を活用した「健康な土づくり」の更なる推進が必要となっています。

このため、土壌診断に基づいた適正施肥や土づくりについて「あおり土づくりの匠」と連携した取組を強化するとともに、環境にやさしい農業（環境保全型農業直接支払交付金・特別栽培農産物等）の拡大や、緩効性肥料のプラスチック被膜殻の流出防止に向けた取組を進めています。



栽培講習会で土づくりの必要性を啓発

(4) 特定家畜伝染病（口蹄疫・高病原性鳥インフルエンザ・豚熱・アフリカ豚熱）発生防止の推進

高病原性鳥インフルエンザは、管内で令和4年4月に続けて2件発生し、県内過去最大となる26.6万羽の鶏が殺処分されました。豚熱については、他県で散発的に豚での発生が継続しているほか、野生いのししでの感染確認地域が拡大しています。さらに、国外では、隣接するアジア諸国において、口蹄疫やアフリカ豚熱が依然として猛威をふるっています。

これら家畜伝染病の発生状況を踏まえると、家畜の飼養密度が高い当地域への侵入が危惧されることから、発生防止に向けた飼養管理基準の遵守や異常家畜の早期発見、早期通報、野生動物の侵入防止などの周知・指導を強化しています。



高病原性鳥インフルエンザ防疫措置

2 地域の活力向上に向けた基盤づくり

(1) 再造林の推進と林地残材の活用

管内の国内最大級のLVL（単板積層材）工場や近隣の大型木質バイオマス発電所に供給するための素材生産量が急増しています。

一方で、持続可能な森林施業を進めるために不可欠な再造林(植栽)率は低位な状況にあるため、造林補助金等を活用した森林所有者の負担が少ない再造林を推進しています。



木質バイオマス発電用チップの製造

(2) 県産材の利用推進

管内には、県内唯一のLVL工場や県内最大規模の製材工場が立地しており、木材製品の供給体制面で有利な条件が揃っていますが、利用者側に木材利用に関する知識が不足しているため、あまり利用されていません。

このため、関係者による連絡体制を構築するほか、木材について深い知識を有する上北地域木造化推進アドバイザーを養成し、木材の地産地消を推進していきます。



県産材木造住宅

(3) 海岸防災林育林活動の推進

東日本大震災の津波により、おいらせ町から三沢市にかけて被害を受けた約123haの海岸防災林の植栽は令和元年度で終了しました。しかし、海岸防災林としての機能を十分に発揮するまでには30～40年もの期間を要するため、適切な育林作業の継続が必要です。

育林には長期間を要する上、対象面積が広大であることから、地域住民等にも育林作業に参加してもらえるように取組を進めています。



海岸防災林復興植樹祭（三沢市）

(4) 「環境公共」の強力かつ着実な推進

本県では農林水産業を支えることは地域の環境を守ることに繋がるとの観点から、農林水産業の生産基盤や農山漁村の生活環境などの整備を行う公共事業を「環境公共」と位置付け、以下の3つの目標を掲げています。

- ①農林水産業が支える自然・景観・文化の保全・継承
- ②持続可能で循環型の農林水産業の実現
- ③地球環境問題への貢献



環境に配慮した水路（東北町）

管内は設定目標に概ね到達していますが、今後も関係者に対して周知しながら、各個別地区の取組及び奥入瀬川小流域における農・林・水の広域的連携を重点的に推進していきます。

(5) 地域農業の将来目標実現に向けたほ場整備の推進

地元農家からの要望を受けて、県営ほ場整備事業を東北町・七戸町の土場川地区484ha、東北町の赤川地区26ha、十和田市の赤石地区36haの3地区で実施しています。

事業では、農地の大区画化のほか、暗渠排水、石礫除去や軟弱地盤改良などの工事を実施し、水稻だけでなく高収益作物も作付け可能なほ場の整備を進めています。



整備後の大区画水田（東北町）

併せて、農地中間管理事業を活用し、区画整理後の農地集積を進めながら、高収益作物の品目検討会及び生産体制づくりを進めています。

(6) 次世代を見据えた啓発活動による水循環保全の推進

上北地域は十和田湖、小川原湖を有し、奥入瀬川や高瀬川流域の河川がもたらす豊富な水資源により農林水産物の生産が支えられており、これら流域においては各種団体による河川等の清掃活動や植樹活動のほか、環境保全に向けた様々な取組が行われています。

このような活動が継続され、水資源が永続的に確保されるように、小・中学生を対象にした学習会など次世代に向けた啓発活動を実施しています。



十和田湖の水利用について学習（十和田市）

3 連携・協働・交流による活力ある農山漁村づくり

(1) 地域資源を活用した食産業づくり

上北地域には、豊富な農畜・水・林産物がありますが、生鮮で出荷されることが多く、これらを活用した加工品開発の取組は多くない状況です。

このため、農林漁業者と食品製造業者、農林漁業者と流通販売業者など、各事業者間の連携を促し、地域資源を活かした新たな加工品づくりと、生鮮品を含めた販売促進活動を支援しています。



新商品お披露目会でのPR

(2) 農作業体験を中心としたグリーン・ツーリズムの推進

農泊を中心としたグリーン・ツーリズムのニーズが高まっていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により宿泊者数や体験受入数等が大幅に減少しています。

このため、農作業体験受入組織等の連携を推進し、ウィズコロナ時代でのグリーン・ツーリズム成功事例等の情報提供により受入農家の意欲を醸成し、農作業体験を中心とした交流人口の回復を図っていきます。



コロナ禍での受入に関する視察研修

(3) 農福連携による障がい者就労の促進

障がい者の就労促進と農業分野における労働力の確保を図るため、農業者と福祉事業所の農福連携に関する情報収集や、円滑なマッチングの体制づくり及び障がい者の農作業能力向上のための実習等を行ってきました。

今後は、農業側と福祉側の双方における農業ジョブトレーナーの育成を行い、農福連携の取組が更に広がるよう支援していきます。



障がい者によるだいこんの選別作業の見学

4 農林水産業の成長と共生社会を支える人財育成

(1) 地域経営の核となる経営体の体質強化

将来にわたり地域農業を安定的に運営していくためには、担い手である集落営農組織や個別経営体の体質強化が必要であり、そのため法人化を進めています。

上北地域の地域経営体数は令和4年5月末現在で138経営体、うち法人は71経営体となっています。引き続き農業経営・就農支援センターが主体となって、地域経営体の法人化を支援していきます。



農業経営セミナー

(2) 新規就農者の定着と経営管理能力の強化

新規就農者の多くは、農業に関する知識・技術が不足し、安定した収益確保ができず、就農後の定着が難しい状況にあります。

このため、基礎的な生産技術の習得及び実践的な経営管理能力の向上を支援するとともに、農業経営士の参画など地域ぐるみによる新規就農者のサポート体制の強化を図っています。



先進農業者との意見交換

(3) 産直施設の新たな取組強化と地域共生社会を支える女性人財の育成

上北地域の産地直売施設は、地域全体の年間販売額が県内トップクラスですが、1施設当たりの年間販売額が伸び悩んでいるほか、買物弱者支援等の地域貢献活動も期待されていることから、産直施設の新たな取組を支援しています。

また、ViC・ウーマンや生活研究グループの地域貢献活動に対して、ビジネスとして持続可能な活動へのステップアップを支援しているほか、高齢化等により減少が続いている女性起業者については、新たな人財育成を行っています。



地域貢献にもつながる産直の活動

(4) 担い手への農地集積・集約化の推進

不在地主の発生や農業従事者の高齢化等により耕作放棄地が増加していることに加え、担い手の利用農地が分散する状況となっています。上北地域における令和3年度の農地中間管理事業の利用は775haと県全体の44%を占めていますが、担い手への農地集積率は56.4%に留まっています。

このため、ほ場整備事業実施地区など比較的まとまった地区で、農地中間管理事業を活用した担い手への農地の集積・集約化を進めています。



農地中間管理事業推進連絡会議

5 野菜産地の生産・販売力の更なる強化

(1) スマート農機普及による野菜産地体制の強化

「1 労働力不足の克服と安全・安心・高品質な農産物の生産」(1)の再掲

(2) 基本技術の徹底によるながいも産地力の強化

上北地域はながいもの一大産地ですが、競合する北海道に比べて単収やA品率が低い状況にあります。

このため、優良種苗の導入や栽培技術の向上、緑肥導入等の土づくりの推進により、品質と収量の向上を目指すとともに、ながいも担い手育成塾の塾生等の将来を担う若手生産者の育成を図っています。



ながいも栽培講習会

(3) 種苗増殖体系の定着によるにんにく産地の維持

にんにくの重要病害虫イモグサレセンチュウの発生面積は横ばい傾向ですが、依然として産地を維持する上で大きな課題となっています。

このため、優良種苗供給に向け、自家増殖の技術指導と採種体制整備に向けた支援を行っています。また、土壌病害虫の発生実態を把握し、発生時の防除対策の普及を図っているほか、乾燥障害の発生を防ぐため、乾燥中の巡回指導を強化しています。



にんにく採種ほのウイルス検査

(4) ニーズの変化に対応できる野菜産地の育成強化

農産物の輸入拡大が進む中でも、国産野菜に対するニーズは高く、特に加工・業務用仕向け野菜の需要が増加しています。

このため、安定した収益確保を図るため、単収及び商品化率の向上や、は種・移植機や収穫機等の導入による省力化、収入保険制度などのセーフティネットへの加入を推進しています。



キャベツ収穫機による省力化の実証

6 グローバル化の進展に対応した畜産経営の確立

(1) 上北の公共牧場を活用した広域飼料供給体制構築

上北地域の公共牧場では、肉用牛の放牧頭数の減少により、未利用草地在年々増加しています。

一方、酪農経営では、1頭当たりの生乳生産量の増加に伴い、1頭当たりの必要飼料量が増加しており、経営規模の維持・拡大には飼料の確保が必要になっています。

このため、関係者が一体となって公共牧場の活用を含めて、広域的な飼料供給体制の構築に取り組んでいます。



公共牧場実態調査

(2) 県産和牛のブランド確立に向けた生産体制の整備

上北地域で生産される十和田湖和牛は、三八地域の倉石牛と並ぶ本県を代表する地域ブランド牛ですが、高齢化に伴う農家数の減少や飼料・素牛価格の高騰等により生産頭数が減少しています。

このため、品質の高位安定化や家畜の増頭事業を活用した頭数確保等を行うとともに、担い手・後継者の育成を図っています。



十和田湖和牛肥育技術向上プロジェクトの採血

(3) TMRセンターを活用した酪農経営支援

飼料費の高騰と労働力不足を背景にTMRの需要量が増加しており、自給飼料（牧草、デントコーン）の安定生産とTMRの高品質化に向けた支援を行っています。

また、乳量や乳質は、飼養環境の影響を大きく受けることから、飼養管理技術の向上を図っています。



搾乳牛240頭規模の牛舎



県産品PRキャラクター「決め手くん」は、「安全・安心」で「おいしい」青森県産品を多くのお客様に印象づけ、県産品全体の認知度向上と総合イメージづくりを進めるため、平成18年に誕生しました。